

算数的活動事例

一組 2学期 単元名「クリスマスツリーのかざりを作ろう」

指導計画（全8時間） E児：2年生、K児：5年生、M児：6年生 ※（）内は教具

1	パズルを使い、いろいろな形を作ることを通して、平面図形に親しむとともに、興味・関心を高める。クリスマスツリーの飾りを作りたいという意欲をもつ。
2	E：パズルのピースの仲間分け。「三角形」「四角形」「辺」「頂点」を知る。 K・M：正方形の紙から、自分でパズルを作り、仲間分けをする。
3	E：三角形・四角形の弁別。格子点を直線で結んで、三角形や四角形などを作図する。 K：正方形・長方形の飾りを作る。 M：三角形の飾りを作る。（三角定規・コンパス・分度器）
4	E：直角を作ったり、身の回りから直角を探したりして理解を深める。 K：円の飾りを作る。（コンパス） M：平方四辺形・台形・ひし形の飾りを作る。（三角定規・コンパス・分度器）
5	E：長方形の意味や性質をまとめたり、長方形を弁別したりする。 K：三角形の飾りを作る。（三角定規・コンパス） M：正多角形の飾りを作る。（三角定規・コンパス・分度器）
6	E：直角三角形の意味や性質をまとめたり、方眼を利用して作図したりする。 K：コンパスで模様をかいたり、三角形を敷き詰めてきれいな模様を作ったりする。 M：いろいろな図形を敷き詰めてきれいな模様を作る。
7	本時 今まで学習した図形を組み合わせて、教師の手本と同じ飾りを作る。 自分の作った飾りの作り方を教え合う。
8	学習した飾りの他にも組み合わせて作れる飾りを考えて作ったり、前時で友達が作り方を説明してくれた飾りを自分でも作ってみたりする。

ねらい

E児：正方形を作ったり、それらを組み合わせたりして、楽しみながら手本と同じツリーの飾りを作ることができる。

K児：コンパスで円や三角形をかいたり、それらを組み合わせたりして、既習事項を生かしながら手本と同じツリーの飾りを作ることができる。

M児：教具をうまく使いこなして正三角形や二等辺三角形を作ったり、それらを組み合わせたりして、既習事項を生かしながら手本と同じツリーの飾りを作ることができる。

	学習活動	留意事項（・）や結果（○）
1	学習のめあてを知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">組み合わせのかざりを作ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お手本の飾りの中で、自分が習った図形がどこに使われているかを見つけさせる。 ・自分が作った飾りの作り方を後でみんなに説明することを伝え、伝え方を考えながら作るようにさせる。 <p>○掲示物を見ながら既習の図形の名称や特徴を確認することで、自分の知っている図形を組み合わせれば作れそうだという見通しを立てることができていた。</p>



2 組み合わせの飾りの作り方を考える。

・簡単なものから難しいものまで、既習の図形を組み合わせた飾りを数種類用意し自分で選ばせることにより、学習意欲を高められるようにする。

○自分が作れそうな飾りの中で一番難しそうなものを選ぼうとする児童もおり、意欲をもって取り組むことができていた。



3 見通しが立った人から、飾りを作る。

・お手本の飾りは、方眼のマス目が見やすくなるよう、カラーではなく普通の方眼紙に薄く色づけをするだけにする。

・失敗しても作り直せるように十分な枚数の色工作用紙を用意することにより、学習意欲を持続できるようにする。

・二等辺三角形・平行四辺形・ひし形のかき方や、平行な線の引き方をまとめた掲示物を用意し、いつでも確認できるようにしておく。



○色とりどりのカラー方眼用紙を見ると、児童は歓声をあげ、思い思いの色を選んですぐに作図に取りかかることができた。

○見本の飾りは方眼のマス目が透けて見えるため、定規で長さを測ることが苦手なE児も、マスの数を数えて同じ大きさの形を作ることができた。

4 できあがった人から、教師に説明しに来る。

・「まず、〇〇します(を作ります)。」次に「そして」「最後に」「〇〇に気をつけます。」などの型を提示することにより、話しやすくする。

○E児は、周囲の教師に自分が選んだ形の作り方を説明する時、説明の型に合わせて自信をもって説明することができた。



5 できあがった飾りを元にみんなに作り方を説明する。

・それぞれの児童に対して観点を与え、それを意識しながら説明をしたり、友達の説明を聞いたりするようにさせた。



○与えられた観点に沿って話したり聞いたりしようと心掛けていた。

6 今日の学習について振り返る。

・児童のがんばりを褒めることにより、自己有用感をもたせることができたようにした。

○児童同士で作品を褒め合い、お互いを認め合う雰囲気を作ることができた。

○次はこんな飾りを作りたいという学習意欲をさらに高めることができた。

*図形学習の中で作った形をクリスマスツリーの飾りにするという単元構想は、算数の学習を生活に生かせるという実感を児童にもたせるのに有効であった。

*ふだんは手堅くできるものしか挑戦しない児童にも、難しいものを作りたいという意欲をもたせることができた。